家の中より安全 曼水避難

清水の小 野田産業、 津波・洪水に備え

水に浮かぶシェルターの素材は、日常生活で使われる発泡スチ で逃げ遅れた際に逃げ込めるシェルターの開発を続けている。

静岡市清水区の住宅メーカー「小野田産業」が、津波や洪水

度の空間は保てる

船でシェルターを引っ張り始

ロールだという。10月30日にあったシェルターの体験・実験に

型のボートに乗っているような めても大きな揺れは感じず、

参加した。

む部分の形は楕円柱で、側面にフ」が浮いていた。人が逃げ込 3 がのシェルター 区の折戸湾の港に縦約3・3 窓が二つ。出入り口となるドア 空は快晴で波も穏やかな清水 横約3·2次、 高さ約2・ 「サムライ

が開かなくても脱出できるよ いが、隣の人と触れあわない程 に長いすがあり、中央にはテー 八で乗り込むと広々とはいかな ブルが設置されていた。 大人9 天井に脱出口が二つある。 乗船」すると、内部は側面

る場面はなかった。 間ほど引航されたが、室内には ると、波を受けて大きく揺れる はぼ浸水してこず、危険を感じ ことも。興津沖まで往復で2時 もともと災害に強い家造りな

発を始め、昨年から販売を開 始。今年はより大きい最大15人 は2016年にシェルターの関 乗りのものを開発した。 どに取り組んでいた小野田産業

の手段」として逃げ込む。シェ 中も危険だという状況で「最後 するのは津波や洪水の時だ。 ターは、水が 所や高台に逃げられず、 どんな時に役立つのか。 一定の深さ以上

港に浮かべられたシ ー「サムライ

遊びの箱件

RESCUE

て浮かんでいるだけの状態にな より揺れない」。ただ、停止し 感覚。参加者も口々に「思った

5人乗りのシェルターの内部。

10 位の高さから重さ900 中の軽乗用 たが、 全体の形状は変わっ

浮力・耐衝撃性に強み

度を生み出した。 られなくなり、家の中が危険に してもらうのが一番だが、逃げ の内部に水や食糧を備蓄でき、 という特殊な樹脂を3一以上の 便用。その上に「ポリウレア」 強い難燃性の発泡スチロールを がある個人や法人などに計10台 で助かる可能性が上がる」と話 なった時に、家の中よりは安全 4人家族だと1週間はもつとい になると浮かびあがる。長いす で中で待つというわけだ。 こと耐衝撃性だ。素材は浮力が を販売した。 できで吹きつけることで、強 っ。水が引くか、助けが来るま こだわったのは、沈まないこ これまで海沿いに家や事務所 は「まずは安全な場所に避難 滝川真哉プロジェクトリーダ 発泡スチロー のの、見る限り内外ともに形状 万円で、同15人乗りが約250 価格は最大8人乗りが約150 エルターを作っていきたい」。 と頑丈にし、さらに火に強いシ 証明できたと思う。今後はもっ アが開き、窓の部分が壊れたも けたシェルターは一瞬へこんだ とした。およそ18人の衝撃を受 上げ、シェルターの真上から落 避難所などとしても活用でき もの遊び部屋や書斎、災害時の いておき、「離れ」として子ど 実験も公開された。 が、車を押し返した。衝撃でド 変わっていなかった。 乗用車を10点の高さまでつり クレーンで900まグラムの 同日にはシェルター 小野田良作社長は「頑丈だと

が断熱材になり、暑さや寒さ 普段は庭に置 村博事務局長によると、東日本 人震災の被害を受けて民間企業 般社団法人防災安全協会の北 防災推奨品」に認定している 小野田産業のシェルターを

おけば、いざという時に役立つ た、備えの一つとして設置して いるが、実際に災害時に使われ 週じて強度や

浮力の

実証をして で津波避難シェルターの開発が に例は把握できていないため 進んだという。「各社が実験を 『絶対安全』とは言えない。た

令和元年11 月

可能性がある」と話す。

朝

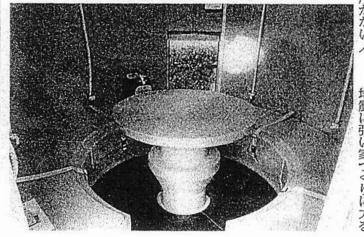
新

聞

掲載



●シェルターの前で「津波などの災害から命を守りたい」 と開発の思いを語る小野田良作社長 「大人6人が余裕を持って座れるシェルター=いずれも静岡市清水区で 良作社長 の大人6人が余裕をいずれも静岡市清水区で



人を大切にする経営学会 坂本光司会長

中小の注文住宅メーカーだが、 立独歩の経営をしており顧客の評価 が高い。注目しているのは住宅その ものではなく、津波のシェルター。 地震を中心とした災害に強い家づく りを続けてきたが、東日本大震災の ように津波で家自体が流されては意 味がないと開発した。住宅をつくる 経営者として顧客の命と幸せを守る ことを第一に考えており、価格は驚 くほど安い。原価から計算したもう けありきの考え方ではなく、避難で きない人の支払い能力で設定したか もっと社会に出れば、災害時 に多くの人の命が救われる。

小野田産業

(静岡市清水区)

ルター」 駐車場に置かれた円筒形の 水に浮く頑丈な「津波シェ となって命を守る。 鮮やかな黄色と緑色が 津波が来た時には 見、 二・二、
が四方の大 遊具のよう

と座れる。 置され、大人六人がゆったり ぐるりと囲むように椅子が配 非常食を備えられる。 近くに避難場所がない 座面の下には寝袋

・六
が。中央のテーブルを

室内は直径一・九
が、

高さ

の大命題」との信念を持って を守ることが住宅メーカー 地震に強い家づくりに力を

われ続ける地で「住む人の命 きてもおかしくない、 は三代目。東海地震がいつ起

と言

はパーフェクトでも、 年末から構想に着手。

山田晃史

りしたら命を守れない」と同 たのがシェルター。 れた」。勢いに乗って手掛け 浮力や耐久力を調べる実験を 選ばれた。 流されたり、噴火で壊された 「やってきたことが認めら 「地震に 津波で

築を手掛ける。 して創業。六五年から住宅建 いうときも安全」と笑う。 子どもの勉強部屋やカラオケ 九四五年に小野田製材と ムとして使えて、 小野田社長 いざと 表彰で、

企業部門の最高賞に

小野 ウス」を開発。 エンスジャパン推進協議会の

どの業界団体でつくるレジリ 国土強靱化を目指して建設な 化槽としても使える貯水タン 揺れないようにする装置や浄 クを備えた「パーフェクトハ 〇一六年、

SHIZUOKA 天井には緊急用の脱出口を設 脂を全面に塗り、 れているというポリウレア樹 泡スチロール。 穴や換気口も付けた。 に収まる。 きさで一台分の駐車スペース 出入り口のドアのほか、 横転時を想定して水抜き 素材は難燃性の発 米軍でも使わ 強度を増 齢者のために開発した。

逃げるのが難しい子どもや高 田良作社長(六)は「普段から 空気圧で家を浮かせて

> 今年五月に販売を始めた。 快適に過ごせる工夫もして、 繰り返し、空調を付けるなど

中日新聞 掲載 平成30年8月